

## 新種として報告されたオタフクゲンコ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産研究・教育機構 公開日: 2024-06-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 星野, 浩一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008505">https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008505</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



# 新種として報告されたオタフクゲンコ

業務推進部 標本管理室 星野 浩一

下の写真 1 を見てください。虫のような魚のような不思議な生き物です。体は平たく、二つならんだ眼は小さく、口は下向きにとがっています。いったい何でしょう？

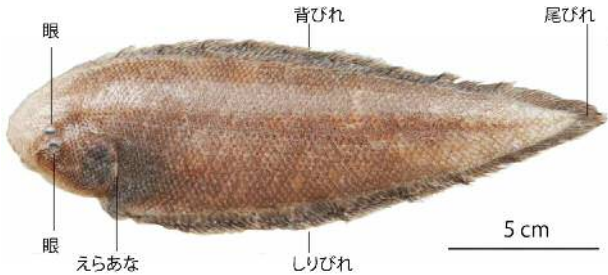


写真 1. オタフクゲンコ (左側面) . 写真個体 : 水産研究教育機構所蔵, 登録番号 SNFR 21755.

実は、オタフクゲンコという東シナ海・黄海産の魚です。魚らしく見えませんが、背骨も頭の骨もあり、ヒレやエラ、内臓などのつくりも魚の特徴を備えています。

## ヒラメやカレイの仲間

オタフクゲンコはヒラメやカレイの仲間です。ふつうの魚は眼が体の左側と右側に一つずつありますが、この仲間は二つの眼が体の片側 (左側または右側) にあります。オタフクゲンコとふつうの魚 (ここではアカアマダイ : 写真 2) の、背びれ・尾びれ・しりびれの付き方、えらあなの位置を比べてみましょう。オタフクゲンコの二つの眼が片側にあることがわかると思います。写真 1 のオタフクゲンコは背中ではなく体の左側面をこちらに向けているのです。普段はこの面を上に向けて暮らしています。



写真 2. アカアマダイ.

ふつうの魚では、左右両側とも形はほぼ同じです。しかし、ヒラメやカレイの仲間は左右で大きく形が違います。写真 3 は、オタフクゲンコの体の反対側 (右側面) です。左側面と違って色が白く、眼がありません。実はヒラメやカレイの仲間も卵からふ化した直後は体の両側に一つずつ眼があります。ところが成長に伴い片方の眼が反対側に移動するのです。なんとも不思議な魚です。

ヒラメやカレイの仲間 (カレイ目 [もく]) はヒラメ科、カレイ科など 14 の科から成り、世界中から約 770 種が知

られています。オタフクゲンコはウシノシタ科に含まれ、この科には世界で約 140 種が知られています。



写真 3. オタフクゲンコ (右側面) . 写真個体 : 写真 1 に同じ.

## 新種としての報告

オタフクゲンコは、実は今年になって高知大学の内藤大河博士と遠藤広光教授により新種として報告された魚類です。ウシノシタ科魚類の分類を研究されている内藤博士が、西海区水産研究所や鹿児島大学総合研究博物館などの研究機関に保管されている標本を詳細に調査され、また関係する他の多くの種の標本と比較された結果、正式な国際共通名である学名が未だ与えられていない種 (未記載種) であることを明らかにされました。そして、日本魚類学会が刊行する英文誌 (Ichthyological Research) に新種としてお二人で正式に公表され、新たに学名を付されました。

生物の学名はラテン語で表記され、オタフクゲンコの学名は *Cynoglossus yokomaru* (サイノグロッサス・ヨウコウマル) です。この“yokomaru”とは研究に用いた標本を採集した、当研究所の調査船「陽光丸」にちなんだものです。内藤博士と遠藤教授のお心遣いに感謝いたします。

なお、学名では近縁な種からなるグループ (属) の名である属名と、その属の中で特定の種を示す種小名を組み合わせて種名を表します。人の名前を姓・名の組み合わせで示すのに似ています。オタフクゲンコでは *Cynoglossus* が属名 (和名ではイヌノシタ属)、*yokomaru* が種小名です。イヌノシタ属の中には他にイヌノシタ (学名 *Cynoglossus robustus*)、アカシタビラメ (学名 *Cynoglossus joyneri*) などが知られています。

## 魚類標本コレクション

今回、オタフクゲンコの研究には当研究所で保管する魚類標本コレクションの所蔵標本を利用いただきました。このコレクションでは研究資料として東シナ海を中心に、約 35,000 個体・1,000 種を超える魚類の標本を所蔵しています。大学など外部の研究機関にも利用を開き、多くの研究者の研究に活用されています。(写真 1 及び 3 の標本は、水産庁委託 我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業で採集されたものです。)